

■福島正則 武将。秀吉に仕え、戦功を重ねて大名になり、家康の覇権にも貢献して広島整備も、豊臣派とみられ不遇の晩年。
ふくしままさのり
川中島最激戦1561＝ 尾張国ニッ寺村で、桶屋に生まれる。父は市兵衛正信、 母が豊臣秀吉の伯母といい、

織田信長入京1568＝ 7歳：

石山合戦始・1570＝ 9歳：

室町幕府滅亡1573＝12歳：

上杉謙信没・1578＝17歳： 小姓として、秀吉に仕え、播磨の三木合戦で初陣、
安土教会許可1579＝18歳：

パリヤー/謁見 1581＝20歳： 秀吉の因幡島取攻めに従軍。
本能寺の変・1582＝21歳： 本能寺の変後の山崎の戦いに功を挙げて、播磨神東郡内で加増され、
賤ヶ岳の戦・1583＝22歳： 賤ヶ岳の戦では、一番槍で一番首の大功で、"賤ヶ岳七本槍"のなかで、別格の5000石の加増をうけた。
長久手の戦・1584＝23歳： 小牧・長久手の戦い、
豊臣秀吉関白1585＝24歳： 紀伊雑賀攻撃で和泉島中城攻めに功をたて、一躍、伊予で10万石を領する大名となり、今治に居城、

パレン追放令 1587＝26歳： 九州征伐に従い肥後宇土の一揆を平らげて、1.3万石を加増され、
刀狩海賊取締1588＝27歳：

秀吉全国统一1590＝29歳： 伊豆韮山城攻撃の先鋒をつとめた。

文禄の役・ 1592＝31歳： 文禄の役には竹島で兵糧輸送にあたり、帰陣後は伏見城工事を分担、

関白秀次事件1595＝34歳： 豊臣秀次の処刑後、織田氏由緒の地で、秀吉が織田色を一掃するために秀次を置いていた尾張清須城24万石を領したことから、いかに重んじられていたかがうかがえる。秀吉と自身の故郷で、関東に対する重要拠点であることから、城を拡張し、民政にも腐心するが、

26聖人殉教・1596＝35歳： 家臣らと新年会をしていた時、挨拶に訪れた黒田長政の代理で酒豪母里太兵衛に言いがかりをつけ、酒の勢いで、秀吉から賜っていた名槍をやってしまう大失敗、のちに、貝原益軒の「黒田家臣伝」に書かれ、黒田節になって歌い継がれるなど、生来、酒乱であり酒の上の失敗には事欠かない。

慶長の役・ 1597＝36歳： 羽柴の氏を授けられ従四位下、侍従に昇任した。
前田利家没・1599＝38歳： 秀吉の死去後、加藤清正らとともに、石田三成を襲い、失脚させる。
関ヶ原の戦・1600＝39歳： 徳川家康に従って、会津攻めに東下し、関ヶ原の戦になると、美濃以西は西軍に属する者が多いなか、下野小山での軍議で、率先して家康に尽くすことを誓い、急ぎ帰城。美濃竹ヶ鼻、岐阜城攻略の中心となり、関ヶ原でも先鋒をつとめ、その功で安芸・備後で49.8万石を与えられ、広島を居城とし、その後、家康の上洛の都度、それに従っているが、松浦鎮信の「武功雑記」には、ある時、広島に戻る船の上で泥酔、自らの勘違いで、家臣に文句をつけ、反論されて激怒、切腹を命じてしまい、酔いが醒めた後、それを知って号泣したという話が載っている。

江戸城完成・1606＝45歳：
家康駿府退隠1607＝46歳： 養子正之を乱行の理由で殺害。
・ ・ ・ ・ ・ 1608＝47歳： 秀頼が痘瘡にかかった際には、西国・中国の大名たちと、密かに見舞う。
琉球使始・ 1610＝49歳： 名古屋築城に参加し、江戸屋敷に暮らす際には、広島から酒を運ばせていたが、ある時、船が暴風雨に遭って、八丈島に漂着、関ヶ原西軍で、島流しになっていた宇喜多秀家から酒を所望され、一樽献上してしまったという報告を受けた際には、咎めるどころか、褒め讃えたといわれるように、素面の時は、極めて良識的で、 広島城を改築し、街道や港湾をはじめ、広島城下町を整備して、大発展に導いたが、大坂冬の陣には、豊臣恩顧のために敬遠されて、江戸城の留守居を命ぜられ、

大坂冬の陣・1614＝53歳：
大坂夏の陣・1615＝54歳：
徳川家康没・1616＝55歳：
吉原遊郭始・1617＝56歳： 従三位下参議に昇任したが、徳川氏の豊臣系大名取りつぶし策のもとに、

菱垣廻船始・1619＝58歳： 広島城修築許可の手續不備をとがめられて芸備2国を没収された。信濃川中島と越後魚沼郡4.5万石に移され、信濃高井野村に蟄居しながらも、新田開発や治水工事で、新領地の発展に尽くして、

徳川家光將軍1623＝62歳：
イスパニヲ断交・1624＝63歳： 病没した。